

ソフトウェア概論 A/B

-- 繰返し(再起呼出し) / Turtle Graphics --

数学科 栗野 俊一 / 渡辺 俊一

2016/05/20 ソフトウェア概

伝言

私語は慎むように !!

- 出席パスワード : 20160520
- 色々なお知らせについて
 - 栗野の Web Page に注意する事
<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino>
- 廊下側の一行は遅刻者専用です(早く来た人は座らない)
- 講義開始前に済ませておく事
 - PC の電源を入れておく
 - ネットワークに接続しておく
 - 今日の資料に目を通しておく
- 講義前の注意
 - 講義前は、栗野は準備で忙しいので TA を捕まえてください
- やる気のある方へ
 - 今日の資料は、すでに上っています
 - ▷ どんどん、先に進んでかまいません

前回(2016/05/13)の復習

□ 前回(2016/05/13)の内容

○ 引数付き関数を作ってみよう

- ▶ 作成: 複数の関数で「共通でない部分を変数」にして「共通化」する
- ▶ 表現: 変化する部分を「変数」にする / 引数に変数を宣言 / 変化する値を呼出し時に指定

○ 条件判定を試みよう

- ▶ 作成: 状況に応じて「複数の命令のどちらか一方」を実行したい
- ▶ 表現: 二つの命令を `if(条件){一方} else {他方}` とする / 条件の所に「`!strcmp(変数,文字列)`」を入れる

お知らせ

□ 本日(2016/05/20)の予定

- PC で Turtle Graphics (亀プログラム) をしてみよう
- 文字列と文字の関係
- 「再帰呼び出し」をしてみよう

□ 本日(2016/05/20)の目標

- 再起呼出しを利用した「繰り返し」を学ぶ
- 演習
 - ▶ 再帰呼び出しをするプログラム : 同じ事を必要なだけ繰り返す
 - ▶ 亀プログラム / 文字の出力
 - ▶ 課題の提出

前回 (2016/05/13) の課題

□ 前回 (2016/05/13) の課題

○ 課題 1:

- ▶ ファイル名 : 20160513-01-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 引数付き関数で、if 文で条件判断をするプログラムを作成しなさい
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 課題 2: 今回(2016/05/20)の課題に回す

- ▶ ファイル名 : 20160513-02-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 底辺の長さが指定した文字列の二倍の長さ - 1 の横向のピラミッドを作成するプログラムを作成しなさい
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)
- ▶ 再帰呼び出しを利用する

本日 (2016/05/20) の課題

□ 本日 (2016/05/20) の課題

○ 課題 1:

- ▶ ファイル名 : 20160513-01-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 漢字の「回」という文字(にみえる..) 絵を Turtle Graphics で書きなさい
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 前回 (2016/05/13) の課題 2:

- ▶ ファイル名 : 20160513-02-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 底辺の長さが指定した文字列の二倍の長さ - 1 の横向のピラミッドを作成するプログラムを作成しなさい
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)
- ▶ 再帰呼び出しを利用する

ファイルの入手とインストール

□ ファイルのダウンロード

- 本日のフォルダ(c:\usr\c\20160520)を作成

- 次の本日 (2016/05/20) のページからファイルをダウンロードする

 - <http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/2016/soft/20160520/20160520.html>

- ダウンロードするファイル (c:\usr\c に保存)

 - ▶ lib.zip

 - ▶ include.zip

- ダウンロードするファイル (c:\usr\c\20160520 に保存)

 - ▶ turtle.zip

□ ファイルをダウンロードしたら次の作業を行う

- ubuntu 側で ~/c/20160520/turtle に移動する

 - ▶ cd ~/c/20160520/turtle

- 「make test」で実行して、絵が出れば良い

 - ▶ [Enter] を押すと終了する

Turtle Graphics (亀プログラム)

□ お呪い

- `#include "s_turtle.h"` を冒頭にいれる

□ 「亀」の操り方

- 「亀」は、最初の状態では

- ▶ 画面の真中にいます
- ▶ 上を向いています

- 「亀」への命令は次の三つ

- ▶ `s_turtle_move();` : 現在の位置に足跡を残し、現在の方向に一步進みます
- ▶ `s_turtle_jump();` : 現在の位置に足跡を残さず、現在の方向に一步進みます
- ▶ `s_turtle_turn();` : 現在の方向を時計回りに 45 度変更します
- ▶ `s_turtle_stop();` : 亀プログラムの終了 (「`return 0;`」の直前に実行)

□ 「亀」プログラムの実行手順

- サクラエディタで、C ファイルを作成(`foobar.c` とする)

- ▶ `c:\usr\c\20160520\turtle` に保存する

- `ubuntu` で次のコマンドを実行する

- ▶ `make BASE=foobar test`

文字の入力と出力

□ 文字の表現

- 文字は「'」で挟む (cf. 「文字列」は「"」で挟む)

- ▶ 当分は、半角のみ、日本語の「文字」は扱わない

□ 文字の出力

- `putchar(文字);` を使う

- ▶ 「`putchar ('a');`」で文字('a')が出力される

- ▶ 改行文字は '\n' で表す : `putchar ('\n')` で改行する

□ 文字の入力

- `getchar()` を使う

- ▶ 「`getchar()`」とすると、キーボードからの入力を待つ

- ▶ 「`putchar (getchar());`」とすると、入力した文字が出力される

□ 文字の計算

- 「文字」に `+1` (次の文字になる) や `-1` (前の文字になる) もできる

- ▶ 詳しくはまた、後日

条件分岐(再)

□ 引数の内容によって振舞いを「大幅」に変更したい

○ if 文と strcmp 関数を利用して対応できる

▷ strcmp 関数 : 二つの文字列を比較する

○ if (!strcmp (A, B)) { X } else { Y }

▷ A と B が同じなら X を、そうでなければ Y を行う

○ 「else if」を使うと更に複数の命令が選べる

▷ if (C1) { P1 } else if (C2) { P2 } .. else { Pn }

▷ C1 の時 P1、そうでなく C2 の時は P2 .. いずれでもない Pn

○ おまじない

▷ #include <string.h>

○ strncmp (A, B, N);

▷ A と B の先頭の N 文字だけを比較する

▷ !strncmp ("abc", "abz", 3); : 等しくない

▷ !strncmp ("abc", "abz", 2); : 等しい

再帰呼び出し

□ 文字列を順番にみてゆく

- 「"abc" + 1」は「"bc"」と同じ振舞いをする

 - ▶ どういう仕組みかは今回は説明しない

- 次々と 1 を加えれば、どんどん短くなる

 - ▶ 最も短くなったかは、空文字(" ")と比較すれば判定できる

□ 再帰呼び出し

- 普通の関数は、別の関数を呼出す事ができた

 - ▶ 「自分の中」で「自分自身」を呼出す事ができる !! : 再帰呼び出し

□ 再帰呼び出しと帰納法

- 再帰呼び出しは、帰納法の考え方で問題を解く場合に利用できる

 - ▶ 再帰呼び出しが上手く行く事は、帰納法で証明できる (数学との関係)

- 再帰呼び出しをする場合は次の二点が重要 (帰納法と同じ)

 - ▶ 最も小さい場合 (ここでは、文字列が "" の場合) には終了する

 - ▶ そうでない時は、再帰呼び出しするが、その時には文字列を短くする

再帰呼び出しの考え方

□ 目標

- 「全部」をやりたい

- ▷でも一挙にはできない

□ 対策

- そこで問題を二つに分ける

- ▷扱いやすい一部分：これは、そのまま対処してしまう

- ▷残り全部：(残り)「全部」なので、再帰呼び出しする

□ 注意点

- 「全部」が空っぽの時に忘れずに処理する

三つの基本制御構造と万能性

□ 三つの基本制御構造

○ f を関数, A, B を命令, $p(x)$ を条件とする時、次の三つの基本構造がある

○ [順接] $f() \{ A B \}$

▷ f は A をしてから B をする

○ [分岐] $f(x) \{ \text{if} (p(x)) \{ A \} \text{else} \{ B \} \}$

▷ f は $p(x)$ が成立すれば A そうでなければ B をする

○ [繰返] $f(x) \{ \text{if} (p(x)) \{ A f(x') \} \text{else} \{ \} \}$

▷ f は $p(x)$ が成立する限り A を行う

▷ x' は x から計算される

□ 万能性

○ 任意のプログラムこの三つの基本制御構造で構成可能

▷ 「三つの基本制御構造」を憶えれば、後は「組み合わせ」を考えるだけ!!